

私の仕事 この一年

宮津市立図書館

有山尚利

私は平成30年4月に京都府宮津市にある宮津市立図書館へ司書として採用されました。今回は宮津市で採用されてからの1年間についてお話します。宮津市は人口約18,000人、京都府北部にある街で天橋立が有名です。私が勤務している宮津市立図書館は2017年にそれまでであった2階建ての図書館から、宮津阪急ビル（シーサイドマートミッブル）という商業施設の3階に移転しました。床面積2,150㎡、蔵書冊数約17万冊の図書館で、下階にはショッピングセンター、上階には子育て支援センターと市役所、最上階にはゲームセンターと食堂街がある、すこし珍しい図書館です。そのため土日には買い物袋やゲームセンターの袋を持った利用者の方がたくさん来られます。

宮津市立図書館には職員が館長含めて17人います。普段は臨時職員の方が2名ずつ早番・遅番でカウンター業務を担当し、館長・正規職員3名・嘱託職員3名でその他の業務を担当しています。私は幼稚園・小学校との連携支援、他図書館との相互協力、イベント・展示の企画、督促等の担当をしていますが、手が足りない場合は担当以外の業務もしています。

この1年で変化が大きかったのは、関わり合う人がとても多くなったことです。特に幼稚園・保育園・小学校へ行く機会が増え、幼児や子どもと関わるが増えました。宮津市立図書館では学校支援として月に一度、市内の幼稚園・保育園、小学校、中学校へ本を配本しており、1回に1,200冊程度、公用車を運転して本の配達に向かいます。この1年で肩の筋肉が強くなりました。また移動図書館車に乗って読み聞かせボランティアの方と一緒に、幼稚園・保育園・小学校へ訪問し、読み聞かせと本の貸出も行っています。まだ1年目で子どもとの接し方も勉強中ですが、移動図書館車に乗って幼稚園や保育園に向かうときに子供達が嬉しそうに本を選んでもくれるのは、こちらも嬉しくなります。

もちろん子どもだけでなく、幅広い年齢の方と関わります。毎日開館時間から閉館時間まで図書館で過ごしておられる方や毎週家族全員で本を借りに来てくださる方、馴染みの方だけでなく買い物ついでに立ち寄ってくださる方も多です。毎日いろんな質問や本のレファレンスを受け、バタバタと走り回ることが多く大変ですが、最近では書架整理をしても「この本はあの方に勧めよう」とか「この本はあの子が喜ぶだろうな」と思いながら本を見ることが多くなりました。宮津市に来て、とても驚いたことは、そのコミュニティ“濃さ”と“狭さ”です。宮津市出身の同僚の職員さんに利用者の方について聞くと「〇〇さんは〇〇に勤務されていて、ご両親も知り合い」とか「〇〇くんは、小学校の頃からよく図書館に来ていて、兄弟が何人いる」といった話が必ず出てきます。そんな土地柄のせい、図書館でも利用者の方と職員との距離が近く、アットホームな関係が築かれているように思います。

この1年は図書館業務をこなしながら、イベントの企画・開催にも力を入れました。地域のイベントで知り合った演劇経験者の方と協力して夏休みに『怖いおはなし会』を開催したり、宮津市の無形文化財である「宮津おどり」の大会に合わせ、『宮津おどり展』と称して、踊りに使う楽器を館内で展示したり、職員が浴衣を着る『図書館浴衣の日』を企画したり、読書週間には大型紙芝居の読み聞かせのイベントやウィキペディアタウンの開催。オープン一周年記念イベントとして絵本作家の先生に来ていただいたり、絵本の読み聞かせ講座を開催したり、クリスマスには着ぐるみを着用して子ども達にプレゼントも配りました。

イベントの開催は職員同士で相談し、アイデアを出しながら進めます。職員全員で協力して一つのイベントをこなしていくのですが、とても体力が必要です。私の見積りの甘さから失

敗も多く経験しましたが、そのたびに同じ職場の方に助けていただき、最近になってようやく、どんな企画・イベントを開催すればどういった方に喜んでもらえるのか、見に来てもらえるのか分かってきました。少しずつ経験を積んでいるのだと実感しています。

4月で2年目を迎えます。最近になって宮津市の気候にも少しずつ慣れてきて、宮津のコミュニティにも馴染んできました。宮津は夏は比較的涼しいのですが、秋から冬には雨が多く月に数日しか晴れの日がありません。司書も市役所の職員と同じなので、図書館業務だけでなく市役所のイベントや業務を担当することもあり、海に入って死んだ牡蠣の殻清掃や天橋立の掃除、台風などの災害時には夜通し避難所に勤務することもあります。自宅にヘルメットや雪かきスコップなど今まで縁の全くなかったものが増えました。最初の頃は車で猪に衝突したという人の話を聞いてゾットしたりもしましたが、自宅の裏で鹿に遭遇しても最近はあまり驚きません。祭りに参加してお神輿を担いだり、消防団に入団したり、弓道を始めたり、町のお祭りやイベントにもたくさん参加し、時には運営にも関わり本当にいろんなことがあった1年でした。

2年目を迎えて、もっとたくさんの人と話し、何事にも積極的に関わって、人と人の距離が近い宮津市立図書館だからこそできることを考えて実施していきたいと考えています。

堺市立中図書館

松谷 侑奈

私は2018年の3月に同志社大学文学部美学芸術学科を卒業し、同年4月より堺市立中図書館で勤務しています。まだまだ先輩職員の皆さんに支えられてばかりですが、約1年間の司書としての経験について、ここで書かせていただきたいと思います。

堺市には分館も含めて14館の図書館があり、私の勤務している中図書館は中でも区域館の位置づけになります。最寄り駅から少し離れた立地になるのですが、ソフィア堺というプラネタリウムを併設する建物の中にあり、教育分野・工学系の資料を多く収集する館となっています。職種としては公務員になるので、入庁してから1週間程度は行政職の方々と一緒に新規採用者研修を受けた後、図書館での仕事が始まりました。本庁で行う研修は、この最初の1週間が終わった後も断続的に行われています。

私は現在、主に児童サービス、青少年サービスを担当しています。学校から依頼を受けてテーマに合った本を集め配送する団地貸出の業務や、チラシ作成をはじめとした定例行事（おはなし会など）の準備を日々行っています。特に、団体貸出についてはほぼ毎週依頼があるので、日常的に行っています。団体貸出用に本を準備する際は、対象となる学年に合う本かどうかを考慮しなければなりません。内容や文章量は適切か、判断に迷う場面が多いです。今は先輩職員の方にアドバイスをいただきながら決定をし、勉強させていただいている段階です。また、どうしても教科書の課程に沿ったテーマが依頼として来るので、同じような内容で学校が重なった場合は先生方の希望冊数を用意できないこともあります。その旨を収書担当者に伝え、不足分の購入を検討していただき、次年度につなげていきます。加えて、授業の一環で図書館見学に来られる小学生への館内案内や、職場体験に来られる中学生の日程調整や指導なども担当させていただいています。学生・生徒の方に向けて説明をする難しさはもちろんありますが、大学の授業では関わることの少なかった年代を対象としてお仕事をするのは面白いです。

堺市立図書館は業務委託を行っていない（中央図書館の一部を除く）ので、カウンター業務も職員が行っています。基本的に1日に2、3時間はカウンターにたてるよう、シフトが組まれます。まだまだ経験が浅いので、レファレンス対応などで戸惑う場面も多いのですが、直接利用者の方と接する機会がしっかりあることはとてもありがたく感じています。また、おはなし会や絵本の時間といった定例行事が毎週土曜日に行われるのですが、月に1回職員が担当す

るおはなし会もあります。私自身も一度担当させていただき、ストーリーテリングと絵本の読み聞かせを行いました。ストーリーテリングを行うのは初めてだったので、他館のボランティア養成講座に参加させていただき、覚えたてのものを披露することとなりました。おはなし会はなんとか無事に終わりましたが、まだまだ修行がたりないと思うばかりです。今回経験したおはなし会もそうですが、ブックリストに載せる本の選定も職員が実際に読んで良いと思ったものを会議にかけるので、職員の技量や経験というのが本当に重要な仕事であるとの1年で改めて感じました。今年度は大阪府立中央図書館で開催された研修など、多くの研修に行かせていただいたので、来年度以降の業務に生かしていきたいと考えています。

現在、勤務時間中のお話ではなくなるのですが、中央図書館の先輩職員の方が企画される図書館見学によく連れて行っていただいています。最近では伊丹市立図書館「ことば蔵」や明石市立図書館を訪れました。自館では全く行っていないような取り組みをされている所に行くと、とても刺激になります。まだまだ司書という職に就いて日は浅いですが、図書館という場でこんなこともできるのか、と考えるのは楽しいです。幸い職場の方にも恵まれ、勉強させていただきながら約1年間続けることが出来ました。拙い文章でしたが、今回の体験記が何かの参考になれば嬉しいです。

京都府立福知山高等学校・附属中学校

川上 綾

こんにちは、京都府立福知山高校・附属中学校で学校図書館司書をしています、川上綾と申します。2018年4月に京都府立高校学校図書館司書として、福知山高校に配属されてから1年ほど経過しますが、この場を借りて、この1年間の仕事やそれを通じて感じたことなどを、簡単にですが紹介できたらと思います。

まずは、勤務先についてですが福知山高校は京都府福知山市にあります。京都府の北部にあたり、すぐお隣は兵庫県といった場所で、府立学校のブロックでは中丹ブロックに属しています。香川県の田舎出身の私にとっては、雰囲気似ており、水害に悩まされること以外は苦も無く、穏やかに生活ができる場所だと思っています。学校は1901年に京都府立第三中学校として創立されて以来、本年度で創立118年目を迎える歴史と伝統を誇る高等学校で、穏やかで勉強熱心な生徒が多い印象です。「勉学・自律・敬愛」を校訓に、「個を活かし、公に生きる」人間の育成・「グローバルに活躍する」人間の育成を目標にしています。また、福知山高校は附属中学校を持っており、図書館は高校生と中学生が同じものを一緒に使用しています。図書館の蔵書冊数は約3万冊で、十分とは言い難いですが、府立図書館、市立図書館、近隣高校と連携を図りながら図書館運営を行っています。私は学校図書館司書として、図書視聴覚部という3人の分掌に属しています。

普段の業務は、カウンター業務、レファレンス業務、授業支援、選書、蔵書登録と司書の仕事は全て行います。司書は一人なので図書館の運営は基本的にすべて任されています。レファレンスでは、授業で調べ学習をしているときに、そのテーマの本はありますか？といったものが多いです。ただ、よくよく話を聞いてみると実際に必要な資料は別のものだったということもよくあり、それを生徒自身が分かっていないケースも多いです。最近になってやっと、深く聞き、紙にメモを書いて頭の中を図式化してあげることでうまくいくことが分かりました。また、先生方はすごく忙しいので、休み時間の10分程度で「こういう本を今すぐ欲しい」という依頼も多々あります。時間内にお渡しできるとすごく喜ばれ、司書としてはやりがいを感じる瞬間でもあります。他にも、進路に関する情報や、小論文対策の本や新書を探しているというものも多く、選書においてもそこを意識するようになりました。大学時代に教わった、レファ

レンズやカウンター業務、普段の利用者との会話がコレクションの構築に活かされるということを実感しています。

また、この1年私自身にとっては右も左も分からない中で、新学習指導要領における図書館活用を模索し続けた1年となりました。まず、3月に現高校に赴任が決まり、4月最初に校長先生から言われたのが「京都府学校図書館研究大会 福知山大会」の実施についてでした。図書館を活用した研究授業を高校・附属中学合わせて4つ行わなければならないことがわかり、そこからは普段の業務を覚える傍ら、担当の先生と打ち合わせをしたり、実践例を調べたりと10月の大会までとても忙しかったです。私自身が授業をするのではなくその支援ではあったのですが、学習指導要領や教材、他の実践例を研究する中で学んだものは多かったです。司書として、また学校教育に携わる者として基礎を身につけられた実感があります。

最後に、普段の業務で感じていることをお話します。それは、先生に図書館について知ってもらわなければならないということです。学校にもよりますが、校内研修における図書館の優先順位は低く、私の学校でも図書館活用の校内研修はありません。今年度から2月に一度ぐらいのペースで教職員向けの図書だよりを発行していますが、図書館でできることを掲載すると、「そんなこともしてもらえるの!」とよく驚かれます。こちらが当たり前業務だと思っていることが、先生方には知られていないようです。この図書だよりを出すようになって、資料を探してほしいという依頼も増えました。来年度は、校内研修を実施できたらと思い、今はその企画書を作成しています。少しずつですが、図書館を知ってもらえる機会を増やし、それが授業での図書館利用につながればよいと思います。

京都府立京都八幡高等学校北キャンパス

稲井里砂

京都八幡高校に着任してから、もうすぐ一年が経とうとしています。今回はこうした機会をいただきましたので、学校図書館司書の仕事内容や、日々感じていることなどについて書いていこうと思います。

学校図書館司書の仕事は、選書から配架までの受入業務全般と、貸出・返却・レファレンスなどのサービスに加え、調べ学習などでの授業利用、図書館だよりの作成、コーナー展示やイベントの企画など、挙げ始めるとキリがないほど多岐に亘ります。一つの業務のスペシャリストになるのではなく、全てを満遍なくこなせるオールラウンダーになる必要があります。

苦手なことももちろんありますが、周りの教職員の方々にたくさん助けていただき、何とかこなしています。目下の目標は、ブッカー（本のフィルム）貼りの作業をもっと速く、綺麗にできるようになることです。4月当初よりは慣れてきたと思いますが、まだまだ成長の余地がある、奥深い作業だなと感じます。また、レファレンスサービスについても、何度も力不足を実感しています。生徒の質問は、「何かおもしろい本ない?」という途方もなく難しいものから、調べ学習で使うような、専門的で難しいものまで色々ですが、「もっと適切な本・資料があったのでは?」と後から悶々とすることも少なくありません。こればかりは経験を積み、研鑽に励むしかないと思うので、少しずつがんばりたいと思います。また、コーナー展示やイベントについても、まだまだ工夫できるのだと、他校の図書館を見学させていただく度に痛感します。各校の図書館はどれも違った雰囲気と特色を持っており、会議などで見学させていただくと、とても良い刺激になります。他校の魅力的な図書館を見ると、よし、私もがんばろう、という気持ちが湧いてきます。目の前の仕事でいっぱいいっぱいな時もありますが、少しずつでも、生徒にとって居心地の良い空間を目指していこうと思っています。

学校図書館で働くことはとても楽しく、魅力的です。先日、高校生に人気の高い作家の新刊

を購入して、新刊コーナーに置きました。すると、その日のうちに一人の生徒が新刊コーナーで立ち止まり、その本を手に取りました。そして、様子を伺っていた私の方を振り返り、「この作家さん、好きなんです」と嬉しそうな笑顔で言ってくれました。こういう瞬間が、この仕事をやっていて一番嬉しくなる瞬間です。利用者の「こんな本が読みたい」という気持ちに応えられた時が、司書の仕事における一番のやりがいなのかな、と一人で納得しています。とりわけ、学校図書館は校内の一室という小さな空間でしかなく、利用者は高校生と教職員のみです。利用者一人一人との距離が近く、丁寧に対応できるということが、この感覚を大きくさせているのではないかと思います。

着任してから一年、事あるごとに、自分の高校生活を思い出しています。とりわけ、学校図書館でどのように過ごし、どんなことを思っていたか、記憶を掘り返しているのですが、驚くほど覚えていません。結構な頻度で通っていたように思うのですが、そこで自分が何をしていたか、意外と覚えていないものですね。ですが、図書館で過ごした友人のこと、司書の方がとても親切に接してくれたということだけは、はっきりと覚えています。自分の行動や感情よりも、誰と過ごしたか、といったことの方が、記憶に残っていくのかも知れません。京都八幡高校の卒業生が高校時代を思い起こした時に、「友人とよく行ったな」「先生に勉強を見てもらったな」と思い出せる場所の一つとして、図書館があったらいいな、と思っています。生徒たちに「図書館があって良かった」と思ってもらえる図書館にできるよう、これからも司書として精進を続けていきたいと思っています。